

# 【学習編】はじめに

## このハザードマップに表示されている災害の危険箇所

### 洪水

平成27年に「水防法」の一部が改正され、想定最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域が公表されることとなりました。

本ハザードマップでは、**想定最大規模降雨（概ね1,000年に一度発生する恐れ）**と**計画規模降雨（概ね50～150年に一度発生する恐れ）**の2種類の「洪水浸水想定区域」及び「水深」の情報を掲載しています。また、板野町に洪水被害を生じさせる河川として、「**吉野川**」、「**旧吉野川**」、「**宮川内谷川**」の3つの河川を対象としています。

### 土砂災害

#### ■土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合、住民の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、警戒避難体制を特に整備すべき土地の区域です。

#### ■土砂災害特別警戒区域

土砂災害特別警戒区域は、土砂災害警戒区域のうち土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ住民の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域です。

### 地震

#### □中央構造線・活断層地震

**特定活断層調査区域**・・・「特定施設※」の「新築等」を行う場合に、事業者の方が活断層の調査を行い、「直上」を避けて建築していただく区域（比較的容易に位置を特定することができる「活断層地形等が明確な活断層」を基本に設定）

**活断層の調査を推奨する区域**・・・「特定施設※」の「新築等」を行う場合に、ボーリング調査等の地盤調査を行う場合に、あわせて活断層の調査を行うことを推奨する区域（「位置がやや不明確な活断層」を基本に設定）

※「特定施設」とは、一定規模以上の学校、病院その他の「多数の方が利用する建築物」及び一定量以上の火薬類、石油類その他の「危険物を貯蔵する施設」のことです。

また、中央構造線・活断層帯（讃岐山脈南縁）活断層図（平成24年9月徳島県公表）は、下記で確認することができます。

「徳島県防災・危機管理情報『安心とくしま』」

<https://anshin.pref.tokushima.jp/docs/2012091200380/>

### その他

その他、「浸水継続時間」や「液状化危険度分布」については、下記で確認することができます。

**「浸水継続時間」**（吉野川及び旧吉野川の想定最大規模降雨）

「国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所HP」

[http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/bousai/sinsui/top\\_index.html](http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/bousai/sinsui/top_index.html)

**「液状化危険度分布」**

「徳島県総合地図提供システム」

<http://maps.pref.tokushima.jp>

【地震による液状化】

地震が発生すると、軟弱な地盤の地域では、「液状化」が発生する場合があります。「液状化」が発生すると、砂混じりの水が吹き上がったり、建物が傾いたり倒壊する可能性があります。

## ハザードマップの使い方

ハザードマップの使い方の一例を示します。

自らの命は自らが守るという「自助」を基本に、速やかな避難へ備えてください。

### ステップ 1

#### ご自宅や学校などの災害の危険性があるか確認しよう！

ご自宅や会社・学校など、日頃訪れる場所を確認し、それぞれの箇所でのような災害の危険性があるかを確認してみましょう。

### ステップ 2

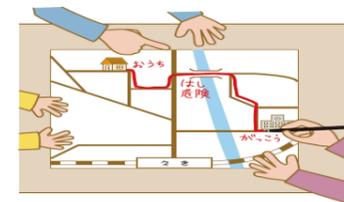
#### 近くの避難場所・避難所を確認しよう！

ご自宅や会社・学校などの近くの避難場所・避難所を確認してみましょう。

### ステップ 3

#### 安全な避難経路を確認しよう！

ご自宅や会社・学校などから避難場所・避難所への避難時において、浸水や土砂災害等の危険な箇所を避けて通れる避難経路を確認してみましょう。



### ステップ 4

#### 実際に歩いてみよう！

確認した避難経路を実際に歩いてみて、災害時に危険なことがないか確認してみましょう。



## 防災・減災に役立つ情報

“災害が起こってから行動する”では、手遅れになる可能性があります。いざという時に備えて、自分の住んでいる地域ではどんな災害が起こるのか、また、災害が起きた時にはどこに避難すればよいのかなど、日頃から防災・減災の情報を入手して防災意識を高めましょう。



**【注意】**洪水浸水想定区域や浸水深は、想定降雨を超えるような雨や、内水氾濫が同時に起きる場合などについては考慮していませんので、実際と異なる場合もあります。各自がおかれた状況に応じて自らの判断で避難行動をとることが重要となります。もしもの場合に備え、日頃から「より安全な場所」の確認をしておきましょう。

